

教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
現代文化学部	准教授	村島 健司	博士(社会学)

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 中国語教育における、1分間スピーチの導入	2012年4月 ～現在に至る	1、2年生の中国語必修クラスにおいて、主に後期後半の授業の冒頭にて、1人1分間の中国語スピーチの課題を与えている。スピーチの内容は自由で、教科書の例文を用いて自己紹介を行うだけでも構わない。1分間スピーチの実施により、学生に対する授業への積極的な参加を促すとともに、教科書の例文を用いただけでもある程度の表現が可能であることを気付かせ、これまでの学びの成果を実感してもらう狙いがある。
アクティブ・ラーニングを含めた多様な初年次教育の実践	2012年4月 ～現在に至る	大学において必要とされる、資料の調べ方、発表への取り組み方、文献の引用方法も含めたレポートの書き方などスタディスキルを身につける授業内容に加えて、新聞を読み注目した記事を切り抜いたうえで議論する「まわしよみ新聞」、「ビブリオバトル」、時事的な社会問題についてのグループでのディベートなど、毎年少しずつ改良しながら、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を行ってきた。
講義科目における、アクティブ・ラーニングを意識した授業展開の実践	2012年4月 ～現在に至る	上記の演習科目で取り入れたアクティブ・ラーニングの要素を、講義科目においても可能な限り取り入れている。たとえば、講義内容に関する社会問題や時事問題、関連する社会学の基礎的な概念について、受講生に質問し、受講生の反応を確認しながら講義を進行することで、一方通行の講義とにならないように心がけている。もっとも講義科目においては、授業時間内にすべての受講者とコミュニケーションを取ることは難しい。そのため、授業の最後に記入してもらいアクションペーパーを通じて、学生による感想や質問などを掘り起こし、次回授業時にはそれらへの応答を行いながら、前回部分の復習や補足を行い、授業の導入へとつなげることを意識している。
(2)作成した教科書・教材・参考書		
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(4)その他教育活動上特記すべき事項 日本語教育能力検定試験合格	2021年12月15日	公益財団法人日本国際教育支援協会実施、2021年度検定試験。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
포스트·포스트 콜로니얼리즘[ポスト·ポストコロニアリズム]	共著(分担執筆)	2023年5月	亦楽出版	漢陽大学日本学国際比較研究所編	280-302
문화권력과 버네클러[文化権力とヴァナキュラー]	共著(分担執筆)	2020年6月	小花出版	翰林大学日本学研究所編	342-361
문화권력: 제국과 포스트제국의 연속과 비연속[文化権力: 帝国とポスト帝国の連続と非連続]	共著(分担執筆)	2019年8月	小花出版	翰林大学日本学研究所編	210-241
中国雲南省少数民族から見える多元的世界: 国家のはざまを生きる民	共著(分担執筆)	2017年4月	明石書店	荻野昌弘・李永祥編	61-83, 89-100
戦争社会学: 理論・大衆社会・表象文化	共著(分担執筆)	2016年10月	明石書店	好井裕明・関礼子編	171-194
安危之思: 灾害人类学及防灾国际学术研讨会论文集	共著(分担執筆)	2016年8月	雲南出版集团	李永祥・劉世哲編	165-174
よるわかる宗教学	共著(分担執筆)	2015年3月	ミネルヴァ書房	櫻井義秀・平藤喜久子編	112-113
震災復興と宗教: (叢書宗教とソーシャルキャピタル第4巻)	共著(分担執筆)	2013年4月	明石書店	稲場圭信・黒崎浩行編	250-269
災害復興—阪神・淡路大震災から10年	共著(分担執筆)	2005年1月	関西学院大学出版会	関西学院大学COE災害復興制度研究所編	205-212
(論文)					
雑誌『季刊千里』と日本人読者にとっての『架橋』	単著	2021年3月	『関西大学人権問題研究室紀要』第81号		61-77
대만에서 일본식민지기 건조물의 문화유산화와 분단되는 가족의 기억 [Divided Memory on Cultural Heritage of Colonial Buildings Between Local Family and Nation in Post War Taiwan]	単著	2019年10月	『인문사회 21[The Journal of Humanities and Social science]』第10号(5)		75-90
帝国日本の開発と文化遺産としてのダム—戦後台湾における文化遺産の変遷と地域社会による実践を中心に—	単著	2019年8月	『日本研究』第51号		169-194
宗教による災害復興支援とその正当性 —台湾仏教による異なる二つの災害復興支援から—	単著	2017年3月	『先端社会研究所紀要』第14号		55-69

国家のはざまを生きる— 中国雲南省イ族タイ族自治 県における文化的再開発—	共著	2015年3月	『先端社会研究所紀要』第 12号	村島健司・林梅・荻野昌 弘・西村正男	1-15
宗教団体的灾后重建活 动与其正当性—以台湾 佛教慈善团体投入的两种 灾后重建为例	单著	2013年9月	『西南边疆民族研究』第13 号		2-10
台湾における生の保障 と宗教—慈済会による社 会的支援を中心に—	单著	2012年3月	『関西学院大学社会学部 紀要』第114号		213-226
試探慈済醫療志工服 務的動力—生命的「互 即互入」—	共著	2010年12月	『「宗教志工服務」與「自我 轉化」學術研討會論文集』	釋宗演・袁慧萍・許秀 蘭・村島健司	19-52
“volunteer”に対応する 語の変容から見た慈済 現象—「義工」と「志工」 を中心に—	单著	2009年6月	『慈済人間與宗教療癒研 討會論文集』		465-482
(その他:コラム)					
雑誌『季刊三千里』と東 アジアの架橋	单著	2020年9月	『関西大学人権問題研究 室室報』第65号		2-4
東アジアにおける無縁社 会と宗教による伴走型支 援	单著	2019年3月	『関西大学人権問題研究 室室報』第62号		2-4
台湾仏教の寺院として、 中国語の寺院として	单著	2015年12月	『Migrants Network(Mネッ ト)』189号		30-31
(その他:翻訳)					
ポストコロニアル研究の 遺産	共訳書	2022年12月	人文書院	磯前順一、タラル・アサ ド、酒井直樹、プラダン・ ゴウランガ・チャラン編	267-331
戦後社会 変動と記憶	共訳書	2013年3月	新曜社	荻野昌弘編	231-271
侯孝賢詩学と時間のプリ ズム	共訳書	2012年1月	あるむ	前野みち子・星野幸代・ 西村正男・薛化元編	217-236
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動					